



# イーハトーブ

1月25日号

2026年1月1日にアナウンサーの久米宏氏(以下久米氏)が逝去されたとのニュースが飛び込んできた。久米氏について筆者も小学生の時から「ザ・ベストテン」や「ニュースステーション」等で長年見てきたアナウンサーであった。特に「ニュースステーション」では、それまでのニュース番組はアナウンサーが正確に原稿を読むつくりであり、キャスターの価値観などを聞くことは無かった。久米氏は自らを「視聴者代表」と位置付け、大物政治家に対しても臆することなく切り込み、時には激論を交わし、権力者にも忖度することない姿を筆者も見えてきた。

戦争に対する価値観も、「戦争はしないほしい。それは僕たちの後世が背負うべきもので、僕が生きている間は、戦争しないでほしい。僕と同じ考えの若い人たちが頑張っていく、それがバトンタッチ」日本の民間放送は戦争を知らない。国民を戦争に向かってミスリードしたという過去が民間放送にはない。「これからもそういうことがないように祈っております」とメッセージを伝えている。権力者に身を委ねる危機感を常に発信していたと筆者は感じている。

一方で今の世の中はどうだろうか？政治に対して、また日本の防衛力強化など権力者の意のままになっている。選挙などで声をあげ「ダメなことはダメ。違うことは違う」と私たちも意思表示をしていかなければ、先達たちの想いも無になってしまふ。

今こそ権力と対峙しなければ「いつか来た道」に逆戻りしてしまふ。

久米氏からのバトンを現代に生きる私たちは受け取り、戦争をしない平和な世の中を守ることを誓い、「ご冥福をお祈りしたいと思う。」

(K.S)

## イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っています。